

GEKKAN ORIMOTO

## 月刊 織本

2

2007年2月1日 Vol.150  
 発行 医療法人財団 織本病院  
 印刷 〒204-0002  
 清瀬市旭が丘 1-261  
 TEL 042 (491) 2121  
 発行人 高木由利

# ア

## ンドリュー・コウジ・テイラー

### ヴァイオリンコンサート

理事長 高木 由利



ヴァイオリニスト / アンドリュー・コウジ・テイラー  
 (2007.1.26)

今年は暖冬で東京は雪が降らないばかりか、紅梅が咲き始めたのには驚きました。こんなに冬が短いとすぐに桜の季節が来てしまうのでしょうか。私は忘れていた2月締め切りの原稿をあわてて書き始めています。

\* \* \*

1月26日はボストンから若きヴァイオリニスト、アンドリュー・コウジ・テイラーさんが当院のオリモトホールで素晴らしいヴァイオリンコンサートをして下さいました。アンドリューさんのコンサートは2回目ですが、彼の演奏は一段と成長し洗練され、その旋律の美しさは言葉では例えようのないものでした。ヴァイオリンはピアノとは違い、鍵盤がないので弦を僅かな指の動きで触れることにより、微細な音を出していきます。その指のタッチを少しでもはずしてしまう



今回の通訳はロシア人のイリーナ・栗橋さん。(写真中)

と全く違った音が出てしまうのです。私の知人には音楽家が多く、ピアニスト、ヴァイオリニスト・チェロリスト・クラリネット奏者・声楽家と多彩ですが、同じ音楽家でもそれぞれの専門分野の違いで反応が異なることに私はとても興味を感じています。例えば音楽家に病気の説明をする時に私は彼らが扱う楽器の種類により表現方法を変えます。1人1人皆、性格や育った環境など全く違うはずですが、ヴァイオリニストにはヴァイオリニストの共通点があるのです。だから病気についてお話していても、とても楽しいのです。

\* \* \*

私はアンドリューさんの演奏の中で、タイスの瞑想曲とバッハ・グノーのアヴェマリアが大好きです。彼の優しさと豊かさと繊細さがこの曲を幾重にも盛り上げてくれるからです。

今回のコンサートでも勿論この2曲を演奏して下さいました。彼は心の中で歌っているようでした。湧き上がるような若い情熱を細く長い管の中に流し込んで洗練された暖かい音に変えて、私達の心に注いでくれるような気がしたのです。前回のコンサートでは私は魂が優しく、癒されている体験をしましたが、今回はカチカチに硬く凝ってしまった脳が少しずつほぐされていくのを感じました。このコンサートの2週間くら

い前から、私は疲れ果てて硬くなった自分の脳をどうやってほぐして癒していけばよいか悩んでいました。大好きなラベルやバッハをMDのイヤホンで聴きながら絵画の本を見たりして、とにかく何とか脳をほぐす方法を考えていたのです。ところが何をしてもすべて状態を悪化させ、脳のストレッチは不成功に終わっていました。アンドリュースさんの演奏の小品集の第1番はモーツァルトでした。私はこの曲を聴きながら不思議な体験をしたのです。彼のヴァイオリンの音色と音符が私の耳から入り鼓膜を振わせ、次に中耳の中にある耳小骨という小さな小さな3つの骨をベルのように振るわせました。すると、そのそばを流れるリンパ液がさざ波を立て、私の脳に緩やかな振動を送っていくのです。更に頭蓋骨はやわらかい音色で心地よく振動しました。何とカチカチになった私の脳が少しずつほぐされ、脳内を網目のように流れる血管がやわらかくなり、よどんでいた血流がサラサラと小川のせせら

ぎのように脳全体を流れていったのです。そして、彼の音楽がその血流に乗って私の頭蓋骨の中をぐるぐるまわり始めたのです。私は少しずつ脳がほぐされていくのを感じました。この安らぎは一体何だろう、この暖かさは一体何だろうと思いつつ、私は心を振るわせていきました。彼の演奏する生の音楽が私の脳を完全に癒してくれたのです。コンサートの後でアンドリュースさんやお母様達と一緒に飲茶を食べながら楽しいひと時でお腹を満たしましたが、楽しそうに飲茶をたいらげていく彼の横顔は先程のヴァイオリン奏者とは又異なる、品のいい若き貴公子の横顔だったのです。

今年は病院の中に音楽を満ちたいというのが私の夢です。生の演奏を聴いて頂くことで1人でも多くの方が、私と同じような体験をして頂ければと願っています。

## What's 放射線

Vol.1



放射線科 主任 松浦 秀雄

### レントゲンのあれこれ ①

#### ～レントゲンの正体とは？～

レントゲン、X線写真、放射線、放射能という言葉は皆さんもよく聞かれると思います。しかし、その正体や違い、体に対しての害、レントゲンで何が分かるのかなど、知らないこともたくさんあるのではないのでしょうか？

ここでは皆さんにレントゲンの事をよく理解し、安心して検査を受けて頂くために、レントゲンについて何回かに分けて説明していきます。

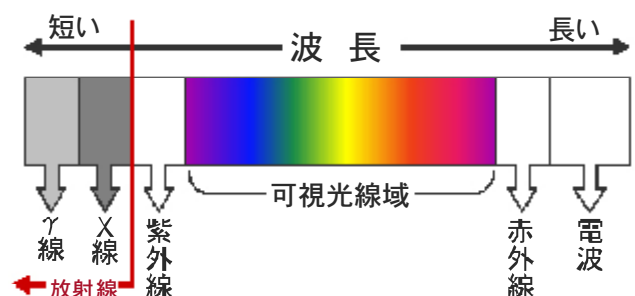
\* \* \*

1895年にヴィルヘルム・レントゲン博士が発見したことからその名をとって「レントゲン」と呼ばれています。正式には「X線」といいます。ではなぜX線と呼ぶか？それは偶然発見されたもので正体が分からず、未知の物だったのでX線と命名されました。

では、その未知の物の正体が何なのかお話ししましょう。X線の正体は電磁波です。電磁波とは波のように振幅を繰り返し空気中や物質の中を伝わります。光や

赤外線、紫外線も又、携帯電話、テレビ、ラジオの電波も電磁波です。電磁波は波の長さ（波長）により性質を色々変えていきます。

波長の長さにより色が変わり、長くなると赤い色、短くなると紫になります。赤から紫までが目に見えるので可視光線と呼び、赤より波長が長くなると赤外線（波長が長いので物質を伝わる際に分子を振動させ熱が出ます。）になり逆に紫より短い波長の電磁波が紫外線、さらに波長が短くなると、X線となります。

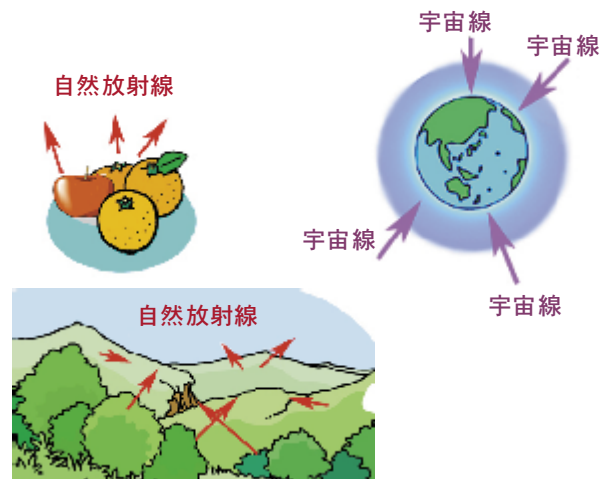


X線からは波長が短く物質や人体を通過・透過し、その際色々な影響があるため放射線と定義されます。なお紫外線も日焼けなど影響しますが、エネルギーが弱いので放射線とは呼びません。

放射線と言っても、X線やγ線は電磁波ですが、その他に粒子の性質を持つα（アルファ）線、β（ベータ）線、中性子線など色々なものがあり、それぞれ異なった性質を持っています。そして、それらの性質をうまく利用し患者さまの病気の発見・治療や私たちの生活の様々な分野で役立っています。

また自然界には宇宙から降り注ぐ宇宙線と言う放射線や自然放射線と呼ばれるものがあり、大地や食物などあらゆるものからも弱く微量の放射線は放出され、

その中で私たちは生活をしています。



## THE 病理診断 Vol.26

### 細胞はデザイナーの作品

聖マリアンナ医科大学 診断病理学教室教授  
高木正之 先生



19世紀に自然主義者のダーウィンは、生物は自然の力で進化したという説を主張しました。例えば、鳥のくちばしは鋭いほうが小さなえさを食べ易いので、鋭いくちばしの鳥が生き残り、鈍なくちばしの鳥は絶滅していくという自然選択説です。自然界にはこのようなことは多くあるので、この考えは多くの人に受け入れられ、その後の科学や文化に大きな影響を与えています。

しかし、約50年前から分子生物学の進歩により、進化論の自然選択説だけでは説明ができない高度で精巧なミクロの世界が明らかになりました。細胞の中にダーウィンの時代の科学者が見ることができなかった、分子機械ともいえる複雑な構造が発見されたからです。例えば、原始的生物と考えられている鞭毛虫を電子顕微鏡で見ると、鞭毛をプロペラのように回すためのモーターのような機械があります。そのモーターは数々の部品によって組み立てられているので、設計されてきたとしか考えられないような精巧なものです。そのモーターはどのようにできたのでしょうか。

最近、欧米の科学者の中には、生物はDNAの遺伝情報という設計図によって造られて美しい独特なデザインがあるため、生命は偶然ではなく知的なデザイナーによって設計されたのではないかと考える動きがでてきました。科学者たちは、そのデザイナーの名前は分からないので「高度な能力」、「偉大な何か」などと呼んでいます。もしこの「知的デザイン説」が真実なら、細胞とその集合体である人体には造られた目的があるはずで、私たちの人生の永遠の疑問である「私は何のために生まれ、何を目的にして生きているのか」ということも、知的デザイナーの情報から読み取れることができる時代が来るのではないかと夢見ています。

## “焼きたてパン” はじめました。

入院なんて、考えただけでも落ち込んでしまう方が多いと思います。不安なうえに、御飯は“まずい”と皆さんそう決め付けていませんか？

当院では、昨年11月より入院患者様のためにパンを焼き始めました。生地はドイツ製です。今のところ「ロールパン」と、全粒粉とライ麦粉ブレンドに麦・ごま・けし・胚芽・とうもろこし・ひまわりの種・亜麻の種・大豆・きび・などをトッピングした「雑穀パン」の2種類です。毎週1回は朝食がパンの献立ですが、毎食パンをご希望の方には、その都度焼きたてで配膳します。もちろん特別食（エネルギー・たんぱく質・塩分の調整が必要な食事）の患者様にも制限遵守内で洋食メニューに変更し、個別対応しています。

初めて焼きたてパンを提供した時、長期療養中の声帯を失った患者様から感謝の手紙を頂戴しました。

No. 1  
栄養科  
通信



### INFORMATION

#### 第71回 腎疾患ゼミナール

### 『腎不全はあなたの体を どう変化させる!? ⑥』

腎臓内科：高木由利



栄養科からのワンポイントアドバイス

『でんぷん薄力粉でワッフルを作ろう!!』

管理栄養士：松元 紀子

2007年2月22日（木）  
午後1：00～2：00  
オリモトホール（当院4F）  
参加費無料



#### 第3回 健康アカデミー

### 『認知症のはなし』

脳神経外科：丸木 親

“老化による物忘れ”と違い、“認知症”は脳の病気です。2月の健康アカデミーでは、脳神経外科医による認知症の症状や診断、治療等についてのお話です。どなたでもご参加できますので、皆様是非お越しください。

2007年2月24日（土）  
午後1：30～3：00  
オリモトホール（当院4F）  
参加費無料

### 編集後記 ●●●

『月刊 織本』はこの2月号より新しくリニューアルし、再発刊致します！！

これまでと同様、皆様に末永くご愛読して頂けるよう気持ちを新たに、より充実した内容で毎号心を込めて制作していこうと思っております。今後とも『月刊 織本』をよろしくお願い致します。

織本病院 広報課